

## みずしげんきこう 水資源機構「環境報告書2018」について

独立行政法人水資源機構は、平成29年度の事業活動に伴う環境保全の取組等をまとめた「環境報告書2018」を作成しました。

水資源機構では、業務の実施に当たって環境の保全に配慮することとしており、当機構の環境方針に基づいて、毎年様々な環境保全の取組等を実施しています。

「環境報告書2018」には、水資源機構の環境方針、平成29年度における環境保全の取組体制、自然環境や貯水池水質の保全対策などの環境保全の取組等を掲載しています。

「環境報告書2018」は、以下の水資源機構のホームページで公表しておりますので、是非ご一読ください。

水資源機構 環境報告書



平成30年9月27日

独立行政法人 水資源機構

発表記者クラブ

国土交通記者会、竹芝記者クラブ、  
水資源記者クラブ、埼玉県政記者クラブ

問い合わせ先

独立行政法人水資源機構 ダム事業部 環境課  
課長 一ノ瀬 (いちのせ)  
課長補佐 亀尾 (かめお)  
電話 048-600-6555

## ■環境報告書2018のトピックス

### ① 【特集】日々模索しながら環境保全に取り組んでいます (小石原川ダム建設事業)・・・P24～27

小石原川ダム建設事業(筑後川水系)では、環境影響評価法に基づく環境影響評価の手続きを実施し、有識者の指導・助言を得ながら、環境調査や環境保全対策を行っています。関係者が一丸となり、日々模索、試行錯誤しながら環境保全に取り組んでいます。



貯水予定区域周辺に生息するクマタカ



移植した植物

### ② 環境保全の取組の体制等 ・・・P12～16

水資源機構では、環境保全の取組を継続的に改善しながら推進していくため、独自の環境マネジメントシステム「W-EMS(ウィームス)」を運用し、PDCAサイクルによる確実な目標管理と継続的な改善を図っています。

また、W-EMSの運用により、環境教育を確実に実施していることなどが評価され、「環境 人づくり企業大賞2017」において奨励賞を受賞し、前年に続き同賞の2年連続受賞となりました。



「環境 人づくり企業大賞2016」授賞



「環境 人づくり企業大賞2017」授賞

水資源機構の  
環境への取組みについて↓



環境 人づくり企業大賞↓



## 「環境報告書2018」作成趣旨

水資源機構は、「環境情報の提供の促進等による特定事業者等の環境に配慮した事業活動の促進に関する法律（平成16年法律第77号）」（環境配慮促進法）に定められた特定事業者です。同法第9条第1項では、特定事業者は、毎事業年度、環境報告書を作成し、公表しなければならないとされており、同法第9条第2項では、「環境報告書の記載事項等」に従って環境報告書を作成するように努めることとされています。

「環境報告書2018」は、同法に基づいて、平成29年度に当機構が実施した環境保全の取組等について取りまとめたものです。

※水資源機構は、平成16年度から環境報告書を作成しています。

## 「環境報告書2018」目次

「環境報告書2018」の主な掲載内容は以下のとおりです。

1. 環境保全に配慮した取組	頁
1-1 自然環境の保全	18-27
環境調査・環境保全対策の実施、環境保全のための環境巡視等、環境に関する委員会・検討会等について記載しています。	
1-2 水質の保全	28-37
水質情報の把握、水質異常の発生抑制、水質異常発生時の対応、水質改善に向けた取組について記載しています。	
2. 環境負荷低減の取組	
2-1 循環型社会の形成に向けた取組	38-49
地球温暖化対策実行計画、再生可能エネルギーの活用、資源の再生・再利用、有害物質の管理について記載しています。	
3. 環境保全意識の向上	
3-1 環境学習会の開催	50-53
環境に対する知識・意識向上を図るために実施した、環境学習会、研修等について記載しています。	
4. 社会とのコミュニケーション	
4-1 環境に関する情報の発信	54-55
広報誌、ホームページ、イベント等での環境情報発信について記載しています。	
4-2 地域に密着した施設・水辺空間	56
景観に配慮した施設整備の実施について記載しています。	
4-3 環境保全活動と地域交流	57
地域での環境保全活動、森林保全活動について記載しています。	